

症例展示マニュアル

症例展示の方法について



アレキサンダー研究会編

目 次

I.	はじめに	3
II.	症例展示に必要な資料【記録】	3
III.	Visual Notebook の作製	
1.	表紙	4
2.	資料の作り方・および入れ方	
(1)	Case Presentation Form	5
(2)	CASE REPORT 【症例の概要】	
(3)	CASE SUMMARY/ 治療計画およびまとめ	
(4)	治療段階別、色分けについて	6
(5)	顔面写真	6
(6)	側方頭部X線規格写真とそのトレース	7
(7)	トレースの重ね合わせ	9
i.	全体図	
ii.	上顎・下顎の重ね合わせ図	
iii.	資料内容の表示	
(8)	口腔内X線写真	10
(9)	口腔内写真	10
(10)	口腔模型	11
IV.	ファイル整理のレイアウト	
1.	治療前、動的治療終了時、保定終了時（保定中）の場合	12
2.	二段階治療の場合	13
V.	参考資料	14
1.	顔面写真・口腔内写真の撮影方法	
2.	スライドからプリントを作るには	
VI.	付 記	15

I. はじめに

「アレキサンダー研究会」では、The Alexander Discipline のフィロソフィーに基づいて治療した症例を展示し、症例を通じて学び合うことを例会活動の中心としています。展示した症例を Dr. Alexander に評価していただくことは提出した会員のレベル向上のみならず、会員全体の研鑽のため大いに役立つ資料となります。

Dr. Alexander が合格と認めたものには Gold Seal が与えられます。さらに7つのカテゴリーにすべて合格したものは AAA (Alexander Achievement Award) の Certificate が与えられます。

そこで展示された症例の内容がわかりやすく、Dr. Alexander の評価を受けやすくするために症例展示フォームの規格統一化を図ることを目的とし本冊子を作製しました。また、研究会の症例展示としての統一感を高め症例見学をしやすくする目的もありますので、会員各位はこの「症例展示マニュアル」にしたがって症例展示資料（記録）を作製し展示して下さい。

II. 症例展示に必要な資料 [記録]

治療前と治療後（動的治療終了時）について揃える。保定終了時（保定中）の資料があればより望ましい。（保定終了時の資料を揃える場合には動的治療終了2年後以上の資料を揃えて下さい）

1. 顔面写真（プリント）：側貌、正貌、スマイル
2. 側方頭部X線規格写真
3. 同上のトレース
4. トレースの重ね合わせ
5. パノラマX線写真あるいは、デンタルX線写真
6. 口腔内写真（プリント）：

※咬合時の正面・左右側面・上下顎歯列咬合面の計5枚とする。

※オプションとして、OB、OJを加えて6枚組としても良い。

※治療中の経過写真を出来るだけ加えて下さい

（1ステップは必ず加えること）。

7. 口腔模型
8. その他：正貌頭部X線規格写真、顎関節、手根骨やオクルーザルX線写真、問診票など。

III. Visual Notebook（展示用フィリングノート）の作製

ファイリングノートは研究会指定の「コクヨクリアブックA-4 ラ-820DM」を各自にてご購入しご準備下さい。

1. 表紙の作り方

カテゴリー別シールに会員の名前と症例番号を記入し、図1のように表紙の右縁より4cm内側の位置に上端を合わせて正確に貼付して下さい。

注意：シールなどへの記入はレタリング、ワープロやタイプなどで印刷または、テープ・ラベルなどで行って下さい。手書きの場合には楷書体できれいに記入して下さい。

カテゴリー別シールは研究会事務所に用意してありますのでご連絡下さい。なお、直前までカテゴリーが決まらない場合には例会当日に会場にてお受け取り下さい。（詳細は後述）



図1. ファイルの表紙

FORM 1

 The Alexander Discipline Study Club of JAPAN
CASE PRESENTATION - Grading -

● Name Dr. _____
● Angle Class _____
● Non-extraction ☐
● Extraction ☐ _____
● Total treatment time _____ months
● Extra-oral Force ☐ _____ type _____ months

Archwire Sequence		
Upper	•	months
	•	months
	•	months
	•	months
	•	months
Lower	•	months
	•	months
	•	months
	•	months
	•	months

Dr. Alexander's comment

Date _____

図2. Case Presentation Form

(入れ方、順番の全体レイアウトは12～13ページを参照して下さい)

【グレーディング希望】の場合は薄茶色の用紙に必要事項を記入する。

【グレーディング不要】の場合は緑色の用紙に必要事項を記入する。

注意：Dr. Alexander's Comment 欄は空白にしておくこと。

用紙に必要事項を記入し、該当する四角枠の項目にはx印を記入する。

なお、二段階治療の場合：用紙は2枚必要とする。

注意：Dr. Alexander に解るように英文で記入するようにして下さい。

用紙に必要事項を記入する。

注意：Dr. Alexander に解るように英文が望ましいです。

また、計測項目の数値に計算上の誤りがないかチェックして下さい。

(※用紙の色については全部白色の用紙にダウンロードしたファイルをプリントして使用しても結構です。)

FORM 5

The Alexander Discipline Study Club of JAPAN

CASE REPORT

Case# _____ Dr. _____

Patient _____ Age _____ y. _____ m. Sex _____

Classification Angle _____ Skeletal _____

Mand. plane angle _____ Overbite _____ mm Overjet _____ mm

Midline _____ Max.: shifted _____ mm _____ Mand.: shifted _____ mm _____

Crossbite R _____ L _____

Missing teeth R _____ L _____ Supernumerary teeth R _____ L _____

Impacted teeth R _____ L _____

ALD _____ Spaced _____ mm

Mand. incisor position _____ Soft tissue profile : _____

Periodontal condition _____ (attached gingiva) _____

Habits _____

Nasopharyngeal airway _____ Others _____

Systematic disease _____

TMD _____

Others _____

Treatment

Treatment time ☐ Active treatment _____ mo.

☐ 2 phases (☐ 1st phase _____ mo. ☐ Maintenance phase _____ mo. ☐ 2nd phase _____ mo.)

☐ Non (☐ 3rd Molar ext. _____) ☐ Ext. _____

Extra-oral forces ☐ Facebow _____ mo. ☐ Others _____ mo.

☐ Chin cap _____ mo. ☐ Face mask _____ mo. ☐ Maxillary protractor _____ mo.

Other appliances _____

Elastic forces _____ mo. _____ mo. _____ mo.

Retainer Upper: _____ Lower: _____

Cooperation _____

Oral hygiene _____

FORM

The Alexander Discipline Study Club of JAPAN

CASE SUMMARY

Case# _____ Patient _____ Dr. _____

Category : _____

Key words : _____

Diagnosis : _____

Treatment objectives : _____

Retention time : ☐ Active treatment _____ mo.

☐ 2 phases (1st phase _____ mo. 2nd phase _____ mo.)

Retainer : Upper _____ Lower _____

Measurements (0.5"~0.5mm)	Initial exam. (y. m.)	Pre-treatment (y. m.)	Post-treatment (y. m.)	Final exam. (y. m.)
SN-MP				
FMA				
OM				
SNA				
SNB				
ANB				
U1 to SN				
U1 to FH				
FMA1				
IMPA				
Convexity				
Interincisal Angle				
U1 to NA (mm)				
L1 to NB (mm)				
L1 to APo (mm)				
Po to NB (mm)				
Y-Axis (SN)				
Lower Lip to H-Line				

Summary & Discussion : _____

症例展示日 1st: ADSC1 Meeting (Date / /) 2nd: (Date / /) 3rd: (Date / /)

図2. CASE SUMMARY /治療計画およびまとめ

(4) 治療段階別、色分けについて

顔面写真、セファロ、パノラマ、口腔内写真、口腔模型等も以下の表1. の表示法にて色分けする。

黒：治療前（初診時）	Pre-treatment or Initial	A
赤：動的治療終了時	Post-treatment	B
緑：保定中あるいは終了時	Post-retention or Final	C

黒：治療前（初診時）	Pre-treatment or Initial	A
青：動的治療前	Pre-treatment, 2nd Phase	A'
赤：動的治療終了時	Post-treatment	B
緑：保定中あるいは終了時	Post-retention or Final	C

表1. 各治療段階別、色分け表

(5) 顔面写真

顔面写真は図5. のように台紙に左から「側貌」、「正貌」、「正貌スマイル」の順番に、各治療段階は台紙の上の段から順番に並べて下さい。

（図5. および表1.参照）

写真台紙を用いずパソコンから直接プリントする場合には、写真の間隔および配置順を台紙の場合に準じること。（写真サイズの目安 5.5 cm x 7.5 cm程度）



図5. 顔面写真

(6) 側方頭部X線規格写真とそのトレース

- 1) 側貌セファロX線写真の左下に症例番号、治療段階、資料採得年月日、年齢（歳ヶ月）をタイプしたラベルシールを貼る。このラベルシールの右下隅に治療段階の色シールを貼る。
- 2) オリジナル・セファロのトレースを行いX線写真の上に重ねてファイルする。（歯の外形およびポリオンの記入にはUNITEKなどのテンプレートを使用する）
- 3) 白色紙面上に各治療段階のトレースをカラーペン（0.3 mm）で描く。その際、FH平面は水平となるようにする。用紙方向は撮影されたセファロの方向に従い、縦、横どちらでもかまわない。
- 4) トレース上には、図7. のように最低限の基準点、基準線（基準平面）をカラーペン（0.1 mm）で描き、計測値を所定の位置に記入する。
- 5) 計測値は0.5 °、0.5 mm単位で記入する。計測項目もよび計測値はそれぞれ表2. の通り。なお、その他各自使用の計測項目があれば加えても構わない。
- 6) 全体のレイアウトは図7. のように左下に症例番号、治療段階、資料採得年月日、年齢（歳ヶ月）をタイプあるいはレタリングする。（英文表示にて）

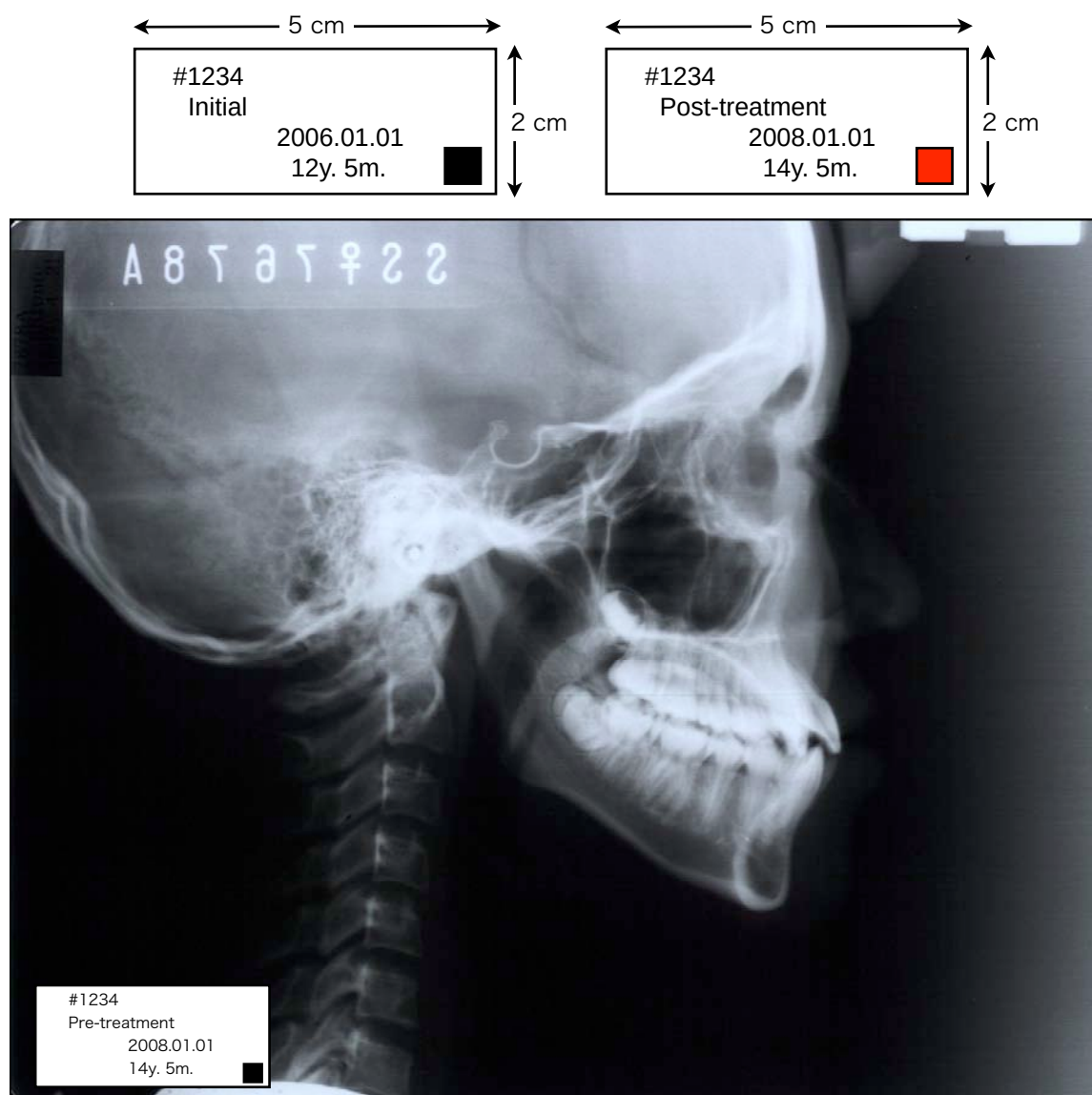


図6. 側貌セファロX線規格写真とラベルシール

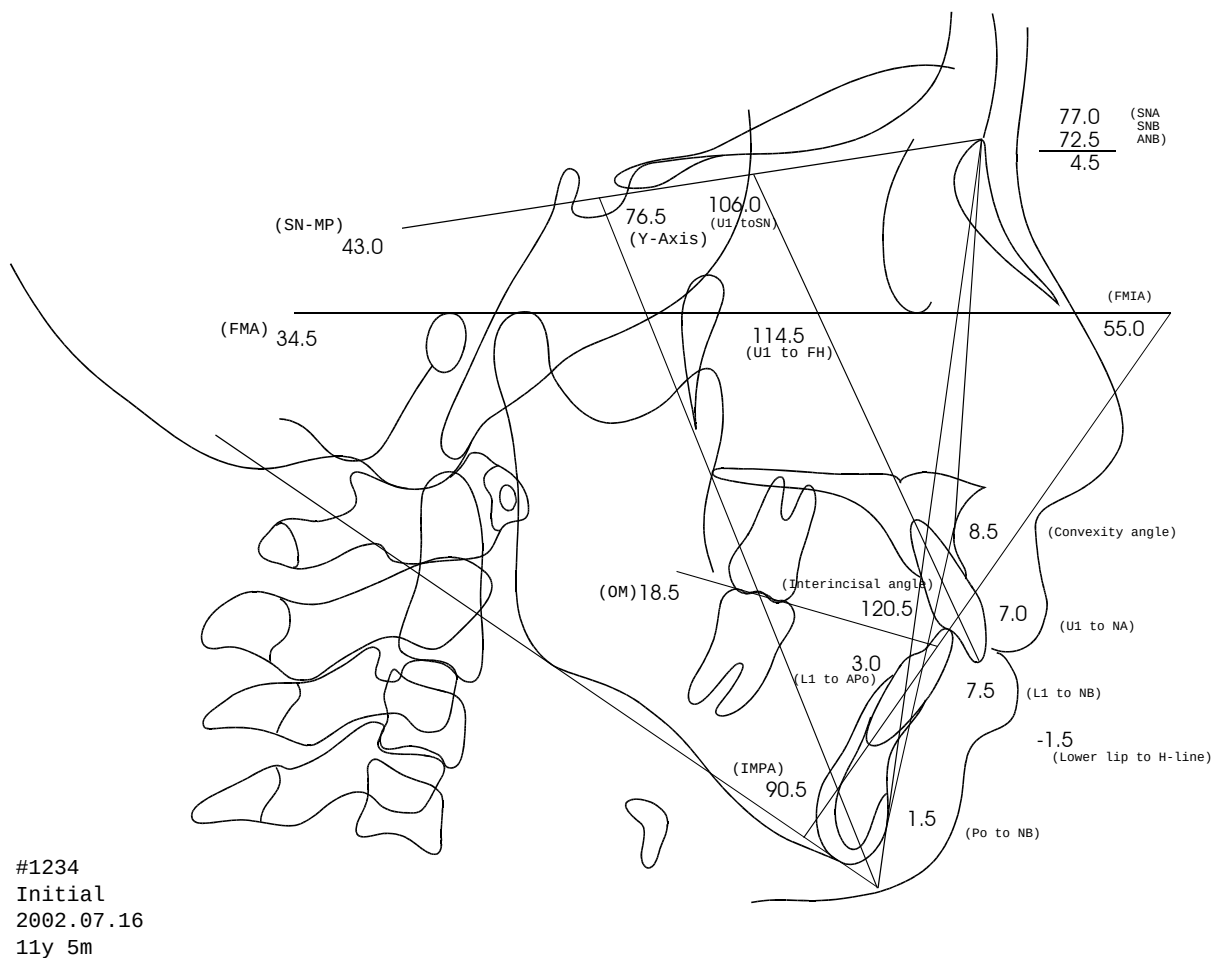


図7. セファロのトレース

計測項目	計測値
SN-MP	43
FMA	34.5
OM	18.5
SNA	77
SNB	72.5
ANB	4.5
U1 to SN	106
U1 to FH	114.5
FMIA	55
IMPA	90.5

計測項目	計測値
Convexity	8.5
Interincisal Angle	120.5
U1 to NA (mm)	7
L1 to NB (mm)	7.5
L1 to APo (mm)	3
Po to NB (mm)	1.5
Y-Axis (SN)	76.5
Lower Lip to H-Line	-1.5
(cast analysis)	
Maxillary intermolar width (mm)	36.5
Mandibular intercanine width (mm)	26.0

表2. 計測項目および計測値

(7) トレースの重ね合わせ

治療に伴う変化を把握するために、全体図と上顎および下顎の2枚の重ね合わせ図を各治療段階に応じて決められたカラーペンを用いて作製する。

(7-1) 全体図 (図8. 参照)

- i) 初診時のセファロトレースをシャーカステンを用いて白紙に描く。
- ii) S原点、S-N planeを基準にして治療後のトレースを赤で重ねて描く。
- iii) 動的治療間 (青) 保定時 (緑) のものがあれば同様に重ねて描く。
- iv) セファロトレースで左右側が2本描かれているものは全て中線で表示する。
(これにより治療前後の変化ならびに成長変化が全体として把握できる。)

(7-2) 上顎、下顎の重ね合わせ図 (図9. 参照)

- i) 上顎はANS原点、Palatal plane を基準にして、下顎はMe原点、Mand. plane を基準にして全体図と同様に重ね合わせ図を作成する。
- ii) 上顎を描いた後、4~5 cmトレースを下方に移動させ下顎を描くとバランスがよい。
(これにより治療前後の変化ならびに成長変化が全体として把握できる。)

(7-1) 資料内容の表示

- i) 2枚の重ね合わせ図の左下に症例番号、各治療段階とその年齢 (歳ヶ月) をタイプあるいはレタリングする。(英文表記)

※注意：コンピュータ分析ソフトの重ね合わせは、ずれて表示されたままのことが多いため、手書き及びその状態に準じて作製して下さい。

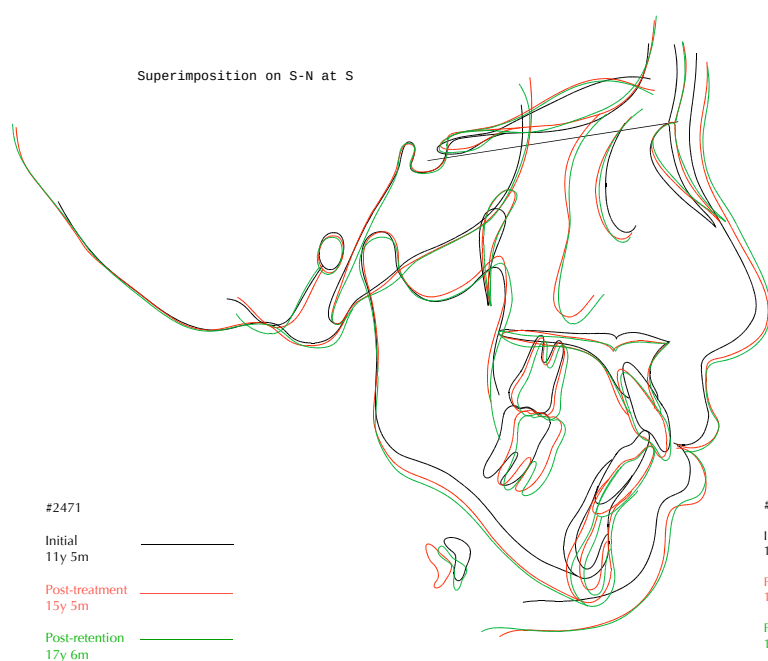


図8. 全体の重ね合わせ

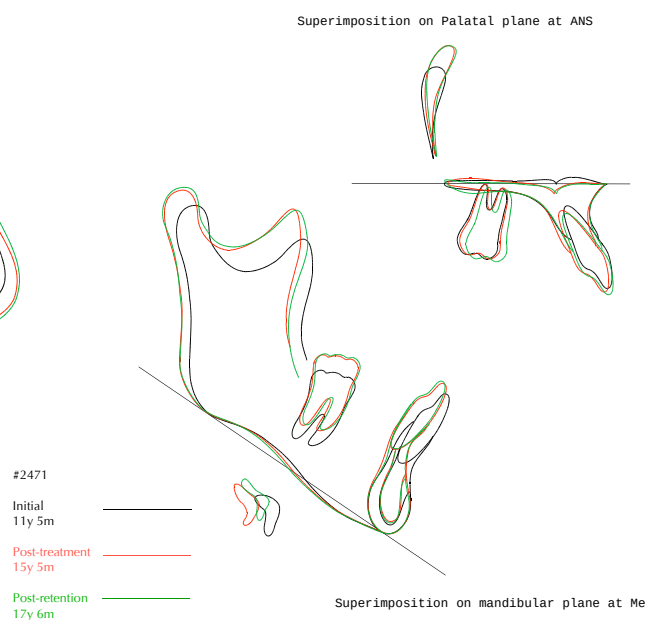


図9. 上顎・下顎の重ね合わせ

(8) 口腔内X線写真

治療前後のパノラマX線写真あるいはデンタルX線写真を全て入れる。

左下に症例番号、治療段階、資料採得日、年齢（歳ヶ月）をタイプしたラベルシールを貼り、さらにラベルの右下隅に治療段階の色シールを貼る。（図10. 参照）

但し、レントゲン写真上に写し込まれたデータにラベルが重なってしまう場合には貼る位置を変えてもよい。

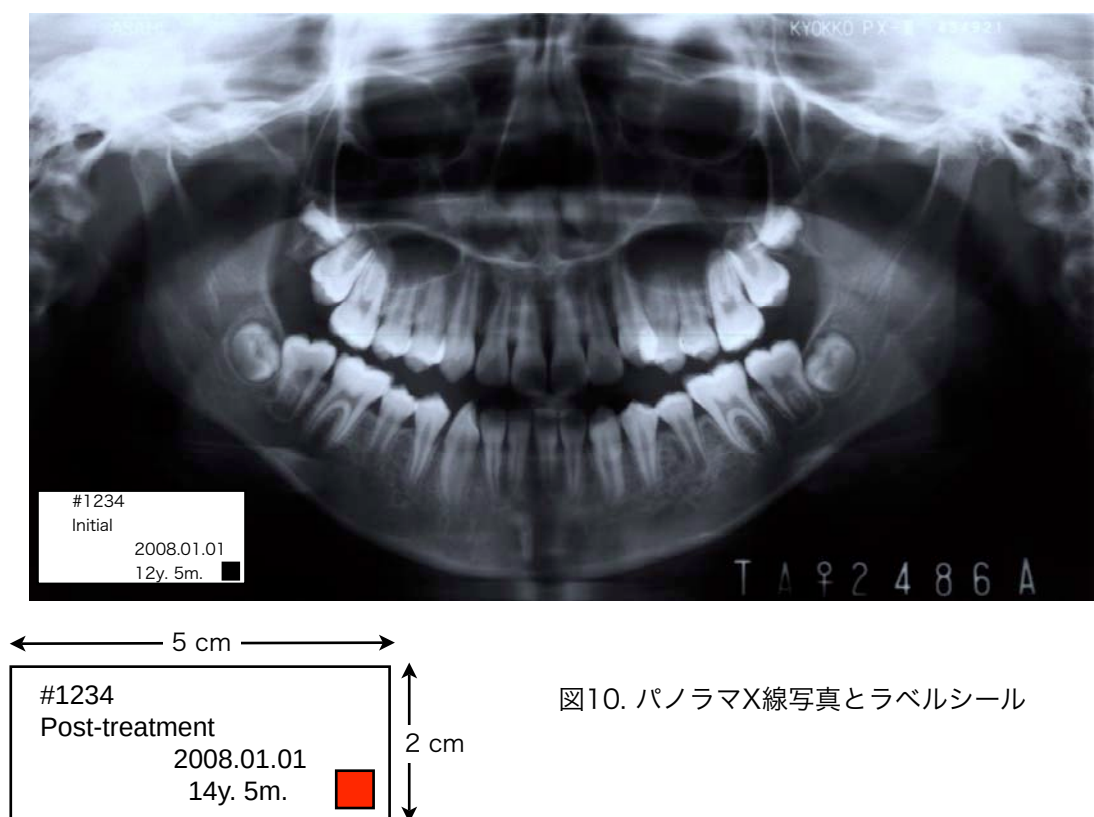


図10. パノラマX線写真とラベルシール

(9) 口腔内写真（プリントの場合）

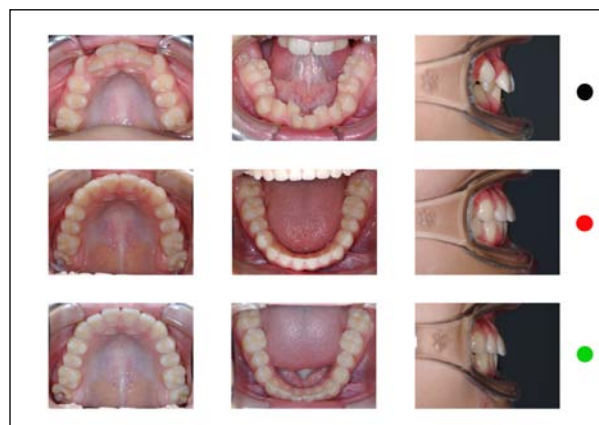
口腔内写真は、図11、図12. のように各治療段階ごとに台紙に貼り、台紙右端の写真枠右中央部に色シールを貼る。

パソコンから直接プリントする場合には、写真の間隔および配置順を台紙の場合に準じること。（写真サイズの目安 7.5 cm x 5.5 cm程度）



右側面 正面 左側面

図11. 口腔内写真（1）



上顎咬合面 下顎咬合面 オプション（OB,OJなど）

図11. 口腔内写真（2）

(10) 口腔模型

1) 平行模型の作製

模型は中心咬合位でトリミングし、図13、14.に準じて作製する。

歯や軟組織の解剖学的形態を正確に再現していなくてはならない。

中心咬合位と中心位とが大きく異なる症例の場合にはそれについて説明をしておく必要がある。

2) ラベルシールおよび色シールの表示

以下のように、上下の模型に白いラベルシールを貼る。

色シールの表示は図14. を原則とするが、所定の位置に貼れない場合はラベルシール右下隅に貼ってもよい。

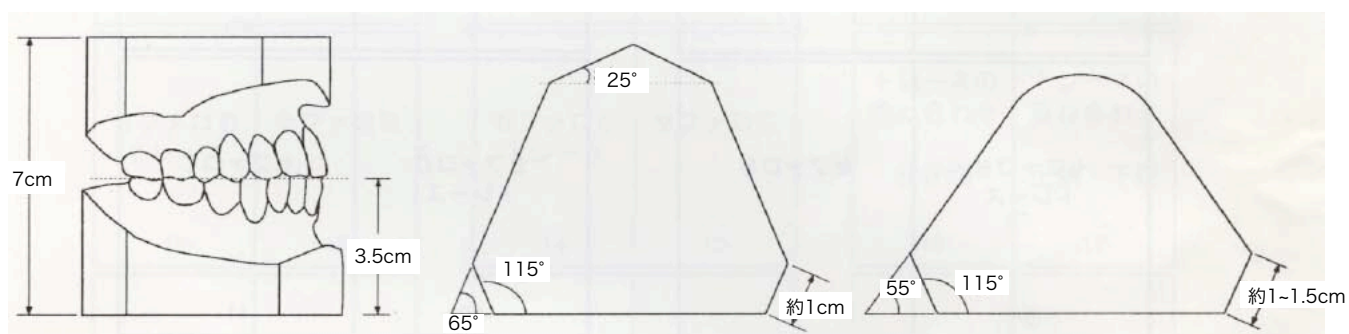
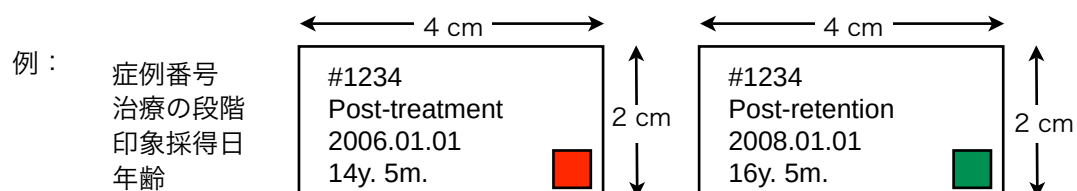


図13. 平行模型の作製

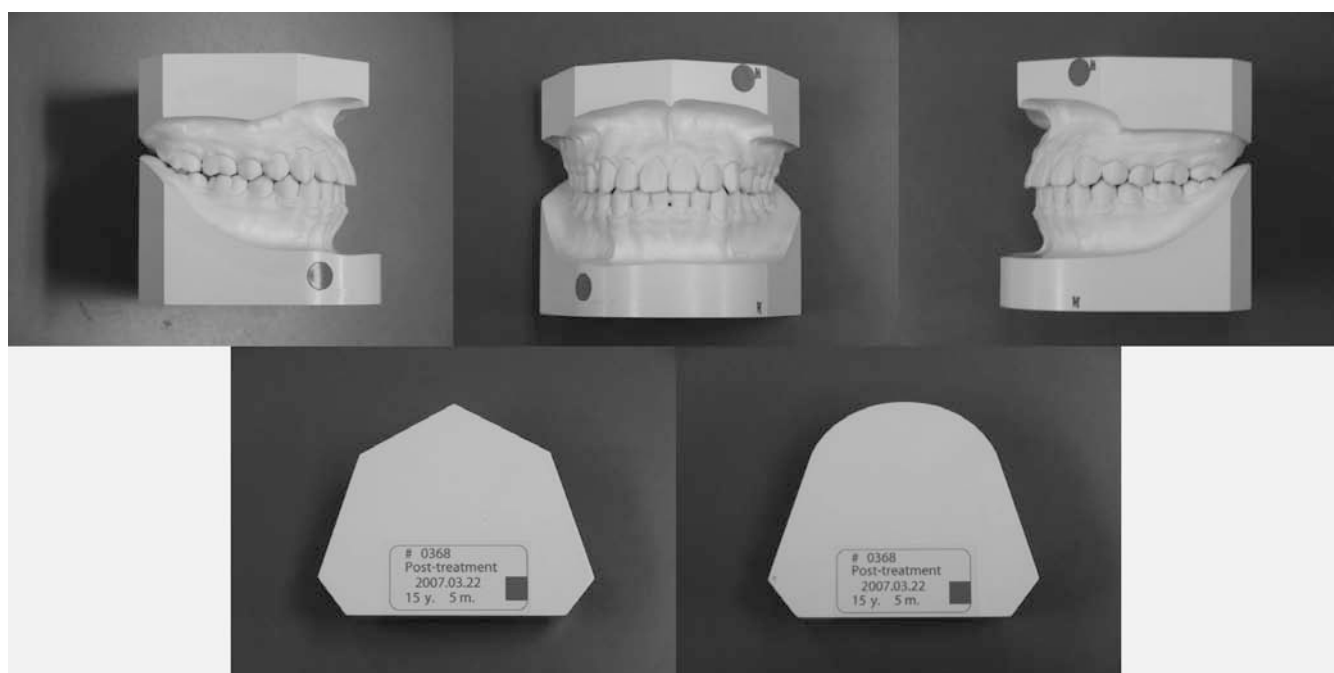


図14. ラベルシールおよび色シールの表示

IV. ファイル整理のレイアウト

1. 治療前、治療後、保定終了時（保定中）の場合（A、B、C）
（C資料が無い場合には、その分を詰めて下さい）

表紙裏	Case Presentation Form -1-	Case Report -2-	Case Summary 治療計画 および まとめ -3-	(ブランク)	顔面写真 -5-
セファロA トレース -6-	セファロA -7-	セファロB トレース -8-	セファロB -9-	セファロC トレース -10-	セファロC -11-
トレース全体 の重ね合わせ 全体図 -12-	トレース全体 の重ね合わせ 上顎・下顎 -13-	(ブランク)	パノラマA -15-	(ブランク)	パノラマB -17-
(ブランク)	パノラマC -19-	口腔内写真 (1)	口腔内写真 (2)	以降オプション -22-	 -23-

IV. ファイル整理のレイアウト

2. 二段階治療の場合 (A、A'、B、C)

表紙裏	Case Presentation Form -1-	Case Report 1st phase -2-	Case Report 2nd phase -3-	(ブランク) -4-	Case Summary 治療計画 および まとめ -5-
顔面写真 -6-	顔面写真 (つづき) -7-	セファロA トレース -8-	セファロA (治療前) (初診時) -9-	セファロA' トレース -10-	セファロA' (動的治療前) -11-
セファロB トレース -12-	セファロB -13-	セファロC トレース -14-	セファロC -15-	トレース全体 の重ね合わせ 全体図 -16-	トレース全体 の重ね合わせ 上顎・下顎 -17-
(ブランク) -18-	パノラマA -19-	(ブランク) -20-	パノラマA' -21-	(ブランク) -22-	パノラマB -23-
(ブランク) -24-	パノラマC -25-	口腔内写真 (1) -26-	口腔内写真 (1) (つづき) -27-	口腔内写真 (2) -28-	口腔内写真 (2) (つづき) -29-
以降オプション -30-	-31-				

V. 参考資料

1. 顔面、口腔内写真の撮影方法

(注：フィルムカメラを使用した場合の方法ですが、記録のために付記しておきます)

- (i) マイクロニッコール55 mm使用の場合
ニコンリングライト (光量FULL) ASA100 1/60sec
顔 面：0.7 m (2.5 feet 弱、1/11倍) f 8
口腔内：正面・側面 24.1 cm (9.5 inches、1/2倍) f 32
咬合面 26 cm前後 (10.5 inches、1/2.5倍) . . . f 32
- (ii) マイクロニッコール105 mm使用の場合
ニコンリングライト (光量FULL) ASA100 1/60sec
顔 面：1.5 m弱 (5 feet 弱) f 5.8

2. スライドからプリントを作るには

- (i) フォトラボ利用
フォトラボでサイズ指定 (5.5 x 7 cm) すれば作ってもらえるが、かなり高価になります。
- (ii) スライドコピー用アタッチメント使用
スライドコピー用アタッチメント使用 (ニコンPS-6、PB-6) を用い、スライドをプリント用フィルムでできるだけ小さく撮影し、サービスプリントする。(サイズを合わせるのに工夫を要す)
- (iii) マイクロニッコール 55 mm使用
シャーカステンの上にスライド用ポジフィルムを縦向きに2枚並べ、1/2倍 (24.1 cm=9.5 inches) でASA400のプリントフィルムにシャッタースピード1/30前後で撮影する。
そして、ハガキサイズにプリントすると一度に2枚の顔面写真が得られ非常に安価に作製できる。但し、ピントが合わせにくいので必ず三脚を使用すること。フィルムがゆ歪んでいる場合にはガラス板などで固定する。(フラッシュ不要、シャーカステンライトを使用のため)
- (iv) 一回の撮影でスライドとプリントを作るには
プリント用のネガフィルムで撮影し、フォトラボに「同時プリント」と「ラッシュプリント」を指示する。

VI. 付 記

ケースカテゴリー別シールや、手書き用の Case Presentation Form 「グレーディング希望」あるいは「グレーディング不要」・CASE REPORT 【症例の概要】・CASE SUMMARY/ 治療計画およびまとめ、の各記入用紙と顔面写真、口腔内写真マウント用台紙が必要な方はアレキサンダー研究会事務局まで申し込んで下さい。

なお、ファイリングノートは研究会指定の「コクヨクリアブックA-4 ラ-820DM」を使用しますので、各自にてご購入しご用意下さい。

また、症例展示直前までカテゴリーが決まらなかった場合は、研究会例会当日に例会会場にてお受け取り下さい。

アレキサンダー研究会事務局

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-33-19

YDM日暮里ビル (株) バイオデント内

Tel 03-5604-0980 (0120-49-0980)

Fax 03-3801-7560

[お問い合わせ先](#)  e-mail: bio@ydm.co.jp

